

子どもの自殺対策推進事業

心の支援課

1 事業目的

教員や子ども自身が思春期における心の危機のサインを理解し、適切に対応できるよう、学校における自殺予防の取組を支援する。

2 事業内容

(1) 教員向け予防研修（中学、高校教員の悉皆研修）

学校現場において、生徒の自殺（心理的危機）のサインを見逃さないよう教員の能力をブラッシュアップするとともに、生徒がSOSを発信できるような取組みに向け、令和元年度に引き続き外部専門家を講師とした研修を実施する。

(2) コミュニケーション力の向上と人間関係づくり支援

① S S T 等人間関係づくりを目的とした講師派遣

S S T 等プログラム	対象校（県立学校）
イントロダクション、聴くスキル、話すスキル、感情をコントロールするスキルなど ※講師は、大学教授、民間団体等が考えられる	30校×2回 (希望する学校に対して補助)

S S T（ソーシャルスキルトレーニング）と呼ばれる対人関係や集団行動を上手に営んでいくための技能（言語、非言語を通して適切に相手に反応するための対人行動）を習得するプログラムを学ぶことで、人間関係での不適応やストレスを軽減・予防していく。

② 「アセス」（学校環境適応感尺度）の活用

生徒にアンケートを実施して、その結果から生活満足感や学習的適応等を測定し、生徒の学校・家庭での不適応感、不安、悩みを客観的に把握し、面談等を実施する。状況によってはS CやS S Wにつなぐことで、早期に生徒支援を多面的に行う。

「アセス」について	対象校（県立高校）
学校適応感理論をもとに、大きく「生活満足感」「学習的適応」「対人的適応」の3つの観点とともに、生活満足感も測定でき、学校外での生活に関する満足感も間接的に知ることができる。	あらたに高校42校（45課程）を指定することで、全県立高校（全課程）において、「アセス」を活用した生徒支援が可能となる。

(3) 子どもの自殺予防等のための相談力向上事業 <高等学校13校、特別支援学校12校>

子どもの「相談力の向上」と、おとな（教員や保護者）の「子どものSOSに気づく感度の向上」を図るため、自殺予防に関する専門的知識を持つ者が、子ども・教員・保護者に対し、ワークショップを実施する。

すべての子どもを対象とした「SOSの出し方に関する教育」の実施に併せ、ワークショップを実施することにより、予防効果を高める。

R2年度は、高校・特別支援学校におけるワークショップを拡充（9校→25校）し、R4年度までにすべての県立高校及び特別支援学校で実施する。

3 令和2年度予算額 1003万9千円